

令和7年度 第2回丸亀市都市計画審議会議事録	
開催日時	令和7年12月17日（水） 14時から 16時00分まで
開会場所	市役所 4階 特別会議室
出席委員及び 関係委員氏名	<p><b>出席者</b> 高濱和則、中島美登子、岡野めぐみ、豊島義則 多田貴幸、資延宏紀、森安勝幸、蒲生裕久、大岡弘美 角野仁美、大倉流星、谷本和也</p> <p><b>欠席者</b> 西成典久、香川真実</p> <p><b>事務局（都市計画課）</b> 伊藤都市整備部長、志村副課長、大関担当長 森主査</p> <p><b>マスターplan改定作業受託事業者</b> 大日本ダイヤコンサルタント㈱ 海野将孝</p>
会議の概要及び会議のてん末	
議 事	<p>1. 大手町4街区再編及びそれに伴う都市計画決定等について 2. 丸亀市都市計画マスターplan（立地適正化計画）の改定について</p>
発言者	発言要旨
事務局	<p>ただいまから令和7年度第2回丸亀市都市計画審議会を開催いたします。</p> <p>本日はご多忙のところ本会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、丸亀市都市整備部都市計画課の志村でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>最初に委員の委嘱についてでございますが、11月5日の任期満了に伴う議員の改選がございました。委嘱状については時間の都合上、机上配付させていただいております。新たな任期は令和7年11月6日から令和9年11月5日までとなっております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、新たに委員となられた皆様に一言ずつ自己紹介とあいさつをいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>＜改選委員自己紹介＞</p> <p>続きまして、本日の会議の出席状況を報告させていただきます。委員14名中12名と過半数のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき会議が有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>それでは、都市整備部長の伊藤より皆様に挨拶申し上げます。</p>
都市整備部長	<p>本日の第2回都市計画審議会では、主に2点についてご報告およびご審議をお願いする予定です。1つ目は、前回の審議会においてご意見をいただいた都市計画マスターplanの改定についてであり、前回のご指</p>

	<p>摘要やご質問の内容を踏まえた報告を行います。2つ目は、大手町地区4街区の再編に係る都市計画変更についてです。本件については、市民の皆様からのご意見を伺うための公聴会等を開催しましたが、特段のご意見はございませんでした。その内容についてご説明いたします。</p> <p>3つ目は、下水道施設に関する都市計画変更の案件です。</p> <p>本日は、委員の皆様からのご意見をいただきながら、内容を取りまとめてまいりたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。</p>
事務局	<p>それでは、新たな任期に入り第1回目の審議会となりますことから、会長の選出を行いたいと思います。</p> <p>本審議会は丸亀市附属機関設置条例第6条の規定に基づき、会長及び副会長の選任は、委員の互選によることとされておりますが、特にご意見等がないようでございましたら、事務局案としては前回に引き続き高濱委員に会長を、西成委員に副会長をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。なお、西成委員は本日欠席されておりますが、事前に承諾を得ているところでございます。</p>
	<高濱委員承諾>
	<p>それでは、本会議の会長を高濱委員に、副会長を西成委員にお願いしたいと思います。高濱委員は会長席にお移りいただき、本会議の進行についてよろしくお願ひします。</p>
会長	<p>委員の皆様にご協力いただき会議を円滑に進行させたいと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
	<p>まず、大手町4街区再編に伴う都市計画の決定変更等に関する議題の説明を求める。</p>
事務局	<議題説明>
会長	<p>それでは事務局の説明に対し委員の皆様から質問等があれば発言をお願いする。</p>
森安委員	<p>変更後の施設について変更前の施設と比較して費用的にはどの程度の差が生じるのか。</p>
事務局	<p>変更前の施設については埋め立て費用が生じるためその分の差は確実に生じることとなるが、詳細な積算までは行っていない。</p>
森安委員	<p>同様の効果が得られ、費用が安く抑えられるならよい取組と考える。</p>

会長	本議題の大手町部分については当審議会への諮問事項となっていま すが、「意見なし」として答申することとする。
事務局	次に丸亀市都市計画マスタープラン(立地適正化計画)の改定に関する説明を求める。
大岡委員	<議題説明>
事務局	P3「防災・減災の取組方針と取組例」において、実施率が42%にとどまっている。別添資料の課題として「深刻な技術者不足」が挙げられているが、この課題を根本的に解決しない限り、実施率の向上は困難であると考えられる。  防災関連事業については、水路整備等において多数の利害関係者との調整が必要となるため、事業推進に一定の時間を要する特性がある。そのため、清水BP水路整備事業を掲載しているが、本事業は関係者が多岐にわたることから、調整に時間を要する点についてご理解を賜りたい。また、技術者不足につきましては、有資格者の減少が背景にあり、建設業界に限らず、他産業においても共通の課題となっている。
大岡委員	技術者不足については、建設業界全体に共通する課題であり、求人募集を行っても人材の確保が困難な状況が続いている。特に土木技師の不足が顕著であり、事業推進に影響を及ぼしている。なお、清水BPについては事業実施率が0%となっているが現時点においても関係者との調整等の準備作業には着手している。
事務局	お城まつり開催期間中は、無料シャトルバスが丸亀駅駐輪場付近に停車しているが、当該停留所から丸亀城まで徒歩で約15分を要する状況である。このため、高齢者や障害者等の交通弱者にとっては、祭り会場までの移動負担が大きい。以上を踏まえ、祭り会場近傍におけるバス停留所の整備が必要であると考える。
角野委員	祭り会場周辺においては、現状、バスの停車スペースを確保することが困難な実情にある。一方で、大手町4街区再編事業の完了後には、交通動線の変更が見込まれている。これに併せて観光バス停留所を活用することで、来場者のアクセス性は改善されると考えられる。また、市民会館北側にはシビックロータリーの整備が予定されており、シャトルバスの停車が可能となることから、全体として利便性の向上が期待される。
事務局	1点目は、高校生アンケートの結果を、今後のまちづくり施策にどのように反映していくのか。 2点目は、アンケート設問の中で、高校生に対して特に有効であった設問はどれであったか。

大倉委員	<p>1点目について、本計画の策定においては高校生のみならず一般市民を対象とした意向調査も実施している。あわせて、現行計画の検証および現状分析を行っていることから、これらの結果を踏まえ、課題および今後の方針を総合的に整理する。</p> <p>2点目として、若い世代の意向の特徴として、エンターテインメント系施設の充実を求める声が見られた一方で、鉄道やバスなど公共交通の充実を求める声や、交通安全対策に対する不満の声が明らかとなつた。</p> <p>自転車通学者が多いことから、これらの意見が多く寄せられたものと推察される。また、まちづくりへの参画意向が高いことも確認され、評価すべき結果である。</p> <p>今後は、イベント等も含め、市民協働によるまちづくりおよび賑わい創出を、若い世代とともに進めていく方針である。</p>
事務局	<p>高校生アンケートについては、前回の都市計画審議会において、市内の全高校を対象とすることに関して意見を述べたところであるが、回答者の中に占める丸亀市民の割合は少ない状況である。今回のアンケート結果からは、エンターテインメント系施設の少なさに対する意見が多いことが明らかとなつた。一方で、住宅の家賃が高いことや子育て環境が良くないとする回答も見られることから、これらの点について、今後、より詳細な分析や深掘りを行ってはどうかと考える。</p>
大倉委員	<p>ご指摘の内容については一部疑問が残るもの、日経 BP が公表している「住みよい街ランキング 2022」において、丸亀市は全国第3位にランクインしている。同ランキングは主にビジネスパーソンを投票対象としていることから、大人世代の視点では、丸亀市は住みやすいまちとして評価されていると考えられる。</p> <p>また、各種指標を見ても、丸亀市は住みやすさの面で上位に位置する項目が多い。例えば、大型小売店数については人口当たりで全国1位となっており、飲食店数も多いほか、都市公園数についてもベスト22に入っている。さらに、自然災害による被害額についても全国で22番目に少ないなど、香川県全体が住みやすい地域である中において、丸亀市は全国的にも高く評価されている。</p>
谷本委員	<p>一方で、世代によって価値観や評価の視点が異なる可能性があることから、アンケート結果については、一概に良否を判断するのではなく、世代間の認識の違いを踏まえて捉える必要があると考える。</p>
	<p>項目はどのように設定した？</p> <p>一般的なまちづくりに対する項目を選定した。</p> <p>高校生アンケートにおいて、「家賃が高い」「子育て環境が良くない」といった意見が見られたが、例えばマルタスで学習している高校生もいるなど、中心市街地に居住する高校生にとっては、日常生活における不便さは比較的少ないと考えられる。一方で、地方部に居住する高校生については、帰宅時間帯のバス便数が少なく、保護者による送迎が必要と</p>

会長	<p>なるケースが多い。このような状況を将来自身が担うことを想定した結果、「子育て環境が良くない」との評価につながっているものと推察される。特に高校生は、学習環境や通学条件に関わる事項に対して、敏感に受け止めている可能性が高い。</p> <p>また、市の中心市街地の活性化は重要であると考えられるが、あわせて、中心市街地以外の地域から多くの人が来訪しやすい環境整備が求められる。大人は自家用車での移動が可能である一方、学生は保護者の送迎に依存せざるを得ない場合が多いことから、移動手段の確保や公共交通の充実を同時に進める必要がある。学生が中心市街地へアクセスしやすいまちづくりを進めることが重要である。</p> <p>当該エリアでは人口減少が進行しており、高校生の数も減少している。全国的に見ても、高校生の人口は、団塊の世代では約 260 万人、団塊ジュニア世代では約 200 万人であったのに対し、現在は約 100 万人程度まで減少している。多くの学生が関西圏や関東圏の大学へ進学する中で、高校卒業後に一度市外へ転出した若者をどのように呼び戻すのかが重要な課題である。今後は、「帰ってきてもらうために何を行うのか」を軸として、議論を進める必要がある。</p> <p>商工会議所では、10 月にキッズウィークを実施しており、大文化祭については、高校生を主な対象として開催してきた。これは、転出が最も顕在化する年代に近い高校生に対し、地域内にどのような企業や仕事があるのかを、子ども本人および保護者に共有することを目的としたものである。これらの取組は過去 2~3 年継続して実施しており、現在の高校生の多くは大文化祭を経験している。</p> <p>こうした取組を通じて、高校生が地域内の仕事や企業に対してどのような反応を示しているのかについて、経年的な変化を把握していくことが有効である。また、進学等により地域外へ転出する理由を把握とともに、将来的にこのエリアに住みたいと感じているかどうかについて、高校生の意向を把握することが重要である。</p> <p>加えて、子どもが大人と話す機会が少ないとの意見があったことも、大文化祭を開催した理由の一つである。高校生が主体的に集い、活動できる場を継続的に創出することで、このまちを住みやすい地域とし、大学進学等で一度転出した後も、将来的に戻ってきたいと感じてもらえる環境づくりにつなげたいと考える。大人の感性とは異なる視点があることを踏まえつつ、高校生アンケートの結果を、今後のまちづくり施策に適切に反映していくことが求められる。</p> <p>なお、日経 BP の「住みよい街ランキング」において丸亀市が全国第 3 位に評価されている点については、高松市中心部で就業し、丸亀市に居住するビジネスパーソンが主な回答者であることから、主として働く世代の視点による評価である点に留意する必要がある。</p> <p>人口減少下においては、地域内に働く場があるか否かが極めて重要である。丸亀市においては、新たな工業団地を整備できる用地が限られており、その結果、市外へ就職先を求めて転出する状況が生じている。住環境の向上は重要な要素であるが、それと同時に、安定した雇用機会を</p>
豊島委員	

	<p>確保できる働く場の存在が不可欠である。</p> <p>一方、飯山地区や綾歌地区は農業振興地域に指定されているため、工場立地や業務施設の開発には制約がある。人口定着を図る観点からは、地域内で働く場所をいかに確保するかについて、引き続き検討を行う必要がある。</p>
会長 事務局	<p>議題 2 については、今回の内容は報告事項として説明いただいたが、令和 8 年度末の改定に向け、今後も継続した審議事項となる。皆様からの意見や様々なデータをもとに、計画（素案）作成に向けた作業が進んでいくことになる。各節目において事務局から報告があると思われる所以、よりよい計画となるよう皆様の意見をお願いしたいと思う。それでは、議題 2 については報告のあった内容で、引き続き改定作業を進めていただくこととする。</p> <p>続いてその他議題について事務局から何かあるか。</p>
会長	<p>従来の予定では今回、防災に関することも取り上げる予定であったが、作業の都合で次回審議会の議題となつた。</p> <p>次回の開催は令和 8 年 6 月頃を予定しているのでよろしくお願いしたい。</p> <p>それでは、本日の審議会はこれにて終了とする。</p>